

今、大学図書館に求められている役割とは？

お茶の水女子大学における教育改革と入試改革の実践 から見えてきたもの

私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会

第2回研究会

テーマ：これからの図書館支援 ～学生を知り学生を育てる～

2016年11月25日(木)

お茶の水女子大学 図書・情報課長
森 いづみ
mori.izumi@ocha.ac.jp

本日の内容

● ねらい

「『学生の育成』としての支援」に焦点をあて、新たな入試制度と連携し図書館による入学前からの『学生の育成』を開始したお茶代の事例を参考に各館の現状や課題をグループワークで共有します。

● スケジュール

- 10:10～ ワークショップ < Hop >
(オリエンテーション、グループワーク①、中間発表)
- 13:00～ 事例紹介
- 14:10～ ワークショップ < Step >
(グループワーク②、決意表明)
- 16:00～16:30 全体討議 < Jump >

本日の内容

- ねらい2

アクティブ・ラーニングを実体験する

主役は参加者である皆さまです。

(講師はファシリテーターです。)

- 事前ワーク→集合ディスカッション(反転授業)
- グループワークによる共有→討議→発表(→持ち帰り・振り返り)
- インタラクティブなやりとりのツールとして、リアルタイム投票・投稿・アンケートができるWeb版クリッカー「imakiku」を活用

アンケートの使い方

● パソコンの方

- ・<https://goo.gl/V2hUif> にアクセス
 - ・所属、お名前、年齢層(任意)を入力/選択して送信
 - ・アンケートに回答
 - ・送信ボタンを押す → 講師のパソコン上の集計結果に反映
- ※一旦ブラウザを閉じて、もう一度入りなおせば続きます。

● タブレット、スマホの方

オンラインで使用

オフラインで使用

下記参加コード、又はQRコードを
アンケート回答者に提示して下さい。
結果は「集計データ」からご覧いただけます。

sugukiku.com

090-717



アイスブレイク(imakiku)

- 今の気分を教えてください！
 - ・ワクワクしている
 - ・戦々恐々・・・
 - ・ぼちぼち
 - ・その他
- アクティブラーニング的な研究会にあたっての意気込みは？
 - ・やったるでーという感じ
 - ・ちょっと大変そう？
 - ・最初は様子見かな？
 - ・その他

アイスブレイク(imakiku)-2

- 大学のミッション(見学の精神・教育方針・教育目標)について、知っていましたか？
 - 1.もともとよく知っていた
 - 2.あることは知っていたが、内容はあまり知らなかった
 - 3.今回初めて知った
- 大学の3つのポリシー(アドミッション、カリキュラム、ディプロマ)について、知っていましたか？
 - 1.もともとよく知っていた
 - 2.あることは知っていたが、内容はあまり知らなかった
 - 3.今回初めて知った

アイスブレイク(imakiku)-3

- 大学のミッションやポリシーの実現のために、図書館としてどんなことができるでしょうか？

(複数回答可)

1. ミッションやポリシーとの関連付けで行っている事業・サービスがある
2. ミッションやポリシーとの関連付けで行う事業・サービスを検討中である
3. 関係他部署との連携を行っている
4. 関係他部署との連携を予定している
5. 思いつかない・考えたことがなかった

Hop ~ 11:40

オリエンテーション+グループワーク①

- 事前課題：大学のミッション、3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）、学習支援の実施事例をグループ内で共有する

→15分

- 自分の大学で行なってる学習支援の共有
 - それは、大学のミッションやポリシーとどうかかわっている？
- 図書館に限らず、学内の実施例を共有
 - 他の部局のことが把握できている？
- 支援の内容や手段についての課題は？
- 中間発表：各グループで出た事例を発表する
 - 3分ずつ（3分×13グループ＝39分）

13:00 ~ 14:00

● 事例報告

「今、大学図書館に求められている役割とは？」

お茶の水女子大学における教育改革と入試改革の実践から見てきたもの

1. 図書館が大学教育にコミットする背景
2. 学習支援関係の業務はどのように変遷してきたか
3. お茶大の図書館と教育改革、入試改革のかかわり
 - 新フンボルト入試とは
 - 平成27年度プレゼミナール
 - 「図書館入試」3つの背景
4. 私たちがこれからできそうなことは？

Step 14:10 ~ 15:40

グループワーク②

- グループで解決策についてディスカッションする
→30分
 - グループワーク①で共有した課題
 - 新たに生じた問題意識
 - やってみたいこと・やれそうなこと
 - お土産を持って帰れるように！ 職場内でもぜひ共有を！
- 決意表明：各グループで出た事例を発表する
→4分ずつ(4分×13グループ=52分)

事例報告

「今、大学図書館に求められている役割とは？」

お茶の水女子大学における教育改革と入試改革の実践から見てきたもの

1. 図書館が大学教育にコミットする背景
2. 学習支援関係の業務はどのように変遷してきたか
3. お茶大の図書館と教育改革、入試改革のかかわり
 - 新フンボルト入試とは
 - 平成27年度プレゼミナール
 - 「図書館入試」3つの背景
4. 私たちがこれからできそうなことは？

図書館が大学教育にコミットする背景

- 従来からやってきたこと(学習・教育支援として)
 - 教育内容に関連した蔵書・コンテンツの整備／提供<情報>
 - 授業外の自習場所の提供<空間>
 - レファレンスサービスや、利用者教育の延長としての情報リテラシー教育<人>
- 新たに求められていること
 - <情報・空間・人>という要素は同じ
 - その中身が変わってきた
 - どのように変わってきたのか？

どんなことが
変わったと
思いますか？

新たに求められていることは？

- 大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー(平成22年12月)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

- 学習支援及び教育活動への直接の関与
- キーワード:
 - ー ラーニングコモンズ: 複数の学生が集まって、電子情報資源も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」
 - ー 図書館職員等が、それらを使った学生の自学自習を支援。教員や図書館職員だけではなく、大学院生や学部3、4年生などが自身の経験などに基づき下級生を指導する体制を組織化

新たに求められていることは？

- 学修環境充実のための学術情報基盤の整備について
(審議まとめ)(平成25年8月)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm

- キーワード:

- 学習環境充実に関わる学術情報基盤整備の三要素:

コンテンツ、学習空間、人的支援が改めて定義された

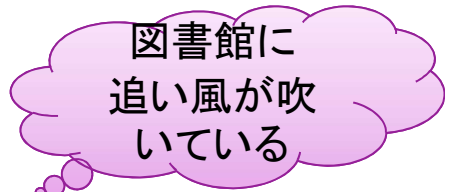
- アクティブ・ラーニング(能動的学修)

「教育振興基本計画」(平成25年6月閣議決定)

学生の主体的な学びの確立に向けた大学教育の質的転換

「学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化」

という文言が盛り込まれた



図書館に
追い風が吹
いている

新たに求められていることは？

「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた
高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的
改革について(平成26年12月)

～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～」

はじめに — 高大接続改革が目指す未来の姿

これからの時代に社会に出て、国の内外で仕事をし、人生を築いていく、今の子供たちやこれから生まれてくる子供たちが、十分な知識と技能を身に付け、十分な思考力・判断力・表現力を磨き、主体性を持って多様な人々と協働することを通して、喜びと糧を得ていくことができるようにすること。

新たに求められていることは？

高大接続システム改革会議の『最終報告』（平成28年3月）

•背景

- 国内外の大きな社会変動（グローバル化・多極化の進展、新興国・地域の勃興／生産年齢人口の急減や地方創生への対応など）
- 「多様な人々と協力し主体性を持って人生を切り開く力」や「知識の量だけでなく、混とんとした状況の中に問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造する資質や能力」が重要である

•教育改革において身に付けるべき力「学力の3要素」

(1)十分な知識・技能

(2)それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に

自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力

(3)これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

まさに、図書館でも考え始めた学習支援の要素。でも、図書館だけでは難しそう。

自己紹介:これまでやってきた仕事

		受入	目録	電子 化OA	参考	閲覧	ILL	教育	広報
東大総図 平成3年～	3カ月	○ ○ ○	見習い						
東大駒図 平成3年～	4年 9ヶ月	外国 雑誌							
東大総図 平成8年～	3年				参考			リテラ シー	冊子
東大基盤 センター 平成11年～	1年							リテラ シー	
三重大図 平成12年～	7年		目録	IR	参考		ILL	リテラ シー	Web 冊子
国立情報 学研究所 平成19年～	6年	REO CLOCKSS	CAT	SPARC IR CiNii			ILL	研修	Web 冊子
お茶大図 平成25年～	3年 目	○ ○ ○	プレイング・マネージャ						

情報リテラシー関連(東大時代)

1996年～1998年

- 参考調査(レファレンス)@東大総合図書館
 - インターネット黎明の頃: 検索手段としては未成熟。
 - レファレンス・ブック主体: 全てを知っている必要はないが、ある事項を調べるための手段は知っていなくてはならない。
 - 利用者サービス: ある事項・事実を調べて答えるだけでなく、どのようにすれば自分で調べられるようになるのかを教えることも大事。

→利用者教育から情報リテラシーの時代へ

学術審議会. “大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について(建議)”. 文部科学省. 1996

JLA「図書館利用教育ガイドライン」1998

→北米の大学図書館を視察



情報リテラシー関連(東大時代)

1996年～1998年

- 情報リテラシー@東大情報基盤センター
- 情報リテラシーは単にOPACの使い方を教えるだけではなく課題解決能力を身に付けてもらうこと。
- 「頑張れば頑張るほど、いらなくなる存在？」
- まず親しんでもらう。ポップな案内・キャラクターの作成

目からウロコが落ちる日々
視点を変える・発想を変える
疑ってみる・考え抜く

情報リテラシー関連(三重大時代)

● 情報リテラシー@三重大学

● 初年次教育／教育の適時性

- 1学年3000人→1学年1500人の世界
- 頑張れば1年生全員に情報リテラシー教育ができる
- 授業やゼミなどで年間200回以上の講習会
- 医学／看護学の学生にはEBM／EBNをキーワードに

● 大学を取り巻く環境の変化

- E-learning のはしり(全学でMoodleの活用が始まった)
- ラーニングコモンズ前夜(Lib-Frontier, Web-Frontier)
- 高校の「情報」科目の必修化

● インターネットの隆盛

- Web2.0 →「ネットがあれば図書館はいらない」論
- ますます「情報リテラシー」は重要に

このころ、
東海地区協議会の
研究集会で「広報」
をテーマに、お話し
させていただきました。
た。

NIIの6年を経て：現在図書・情報課長 @お茶の水女子大学

● 管理業務

- － チームの皆が健康で楽しく仕事ができる環境づくり
- － 大学内や大学の外の動向にアンテナをはり、中期的・長期的なビジョンを持ち、情報共有。強みを活かし、新しい事業にチャレンジ

● 図書館関連(学内)

- － 図書館増築、**新フンボルト入試(図書館入試)**

● 図書館関連(学外)

- － 国公立大学図書館協力委員会 研修あり方WG主査
『大学図書館職員の専門性と研修あり方について(報告書)』(平成27年12月)
- － 国大図協・人材育成小委員会、教育学習支援特別委員会
『国立大学図書館協会 人材委員会 人材育成小委員会(人事政策検討班)
平成24年～25年度調査報告 — 業務委託と人事交流を中心に — 』(平成26年10月)
『高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版』(平成27年10月)

● 歴史資料館：創立140周年記念事業を、創立150周年に向けた記念誌編纂

● 大学内事務系システム・ネットワークの運用・将来構想

新フンボルト入試とは

- 時期：2017年度入学者を選抜する入試から、従来のAO入試を改革した「新フンボルト入試」を開始
- 改革の目的：潜在的な能力、とりわけ大学入学後の学びや社会に出た後に、その能力を大きく伸ばせる「のびしろ」を持った学生の選抜
- 定員：現AO入試の2倍の20名
- 「現場密着型の研究と教育の一体化を提唱」した、ヴィルヘルム・フォン・フンボルト（ベルリン大学創設者）に因んで命名
- 一次選考を兼ねる文理共通のプレゼミナールと、二次選考（文系「図書館入試」、理系「実験室入試」）の二段構え
- 単に知識の多寡を問うのではなく、「課題を探求・発見」し、「必要な資料やデータを活用」し、「オリジナルな解を導き出す」力を測定する

新フンボルト入試(概念図)

選考方法

プレゼミナール

- ◆A0受験生のみならず、高校2年生やA0入試を受験しない3年生、高校教員を受講対象者とする
- ◆当日授業の受講後に簡単なミニレポートを作成する



一次選考

- ◆プレゼミナールで作成したレポートや志望理由書、活動報告書、外国語試験成績等を総合的に評価し一次選考を行う
- ◆生物学科は自主課題研究ポスター（A4判に縮小印刷）の提出を必須とする

二次選考

文系「図書館入試」

- ◆文教育学部（全ての受入学科）、生活科学部人間生活学科
- 1日目：附属図書館で、図書などを自由に参照しつつ課題についてのレポートを長時間かけて作成する
- 2日目：グループ討論、面接



理系「実験室入試」

- ◆理学部数学科、物理学科、化学科、情報科学科
- 思考力や探究力等を見る専門性のある試験課題を課す
- 例：実験、実験演示や実験データをもとにして考察する/黒板などを使って考え方を説明する



- ◆理学部生物学科、生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科
- 自主研究課題のポスター発表を課す（自主課題研究のポスター発表を中心とした、これまでの高校での取組を評価する試験）



平成28年度

入試パンフレットより

http://www.ocha.ac.jp/news/h280126/h280126_2.pdf

● プレゼミナール



● 一次選考



● 二次選考

文系「図書館入試」

- 1日目：附属図書館で、図書などを自由に参照しつつ課題についてのレポートを長時間かけて作成する
- 2日目：グループ討論、面接

平成27年度プレゼミナール

- 2015年8月「新フンボルト入試」の体験版としてプレゼミナールを実施
- その中の一つのメニューとして、「図書館情報検索演習」を実施（「図書館入試」の模擬体験／実際の入試方法ではない）
- 「図書館情報検索演習」のプロセス
 - 1 「課題の提示」
 - 2 「情報探索レクチャー(図1)」
 - 3 「レポート作成(情報探索→執筆)(図2,3)」
 - 4 「グループディスカッション(図4)」

平成27年度プレゼミナール

「図書館情報検索演習」について



図1 情報探索レクチャー



図2 レポート作成 (情報探索)



図3 レポート作成 (執筆)



図4 グループディスカッション

平成27年度プレゼミナール

「図書館情報検索演習」について

● 重要なコンセプト:

- 「受験の有無、合否に関わらず、参加者にお土産を持ち帰ってほしい」(by入試推進室長)
- 「本学図書館を自由に使ってレポート作成、発表」
→いかに実現するか？

● 実現方策:3つの方針

1. コンテンツは、ネットワーク上の情報環境を含め、本学の学部学生と同じ条件で使えること
2. 人的なサポート体制を整えること
3. 場所は、図書館のラーニングコモンズのパソコンや、グループディスカッションを行なうキャリアカフェを含め、図書館をフル活用できること

平成27年度プレゼミナール

「図書館情報検索演習」について

- 図書館スタッフが担当したこと:
 - 各プロセスに最適な環境の整備
 - 「情報探索レクチャー」
 - 「レポート作成(情報探索→執筆)」のサポート
- 関係部署(入試推進室、AO入試室、入試課、および情報基盤センター)と連携し、方針や実施内容、役割分担を検討
- 共通理解の一助として、国立大学図書館協会が2015年6月に公表した「高等教育のための情報リテラシー基準」も活用



平成27年度プレゼミナール アンケート結果

午前・午後に各1回実施し、88名が参加(回収数:81名)

1. 「情報探索レクチャー」の理解度:「とても分かりやすかった」44%、「分かりやすかった」29%、「少し難しかった」11%、「難しかった」4%
2. 有益度:「とても有益だった」72%、「有益だった」22%、「知っていることが多かった」2%、「ほとんど知っていることだった」0%
3. 「レポート作成の際のTA・図書館スタッフの支援や助言」:「有益で助かった」83%、「少し役に立った」12%、「あまり有益でなかった」0%「有益でなかった」0%
→これらの結果から、参加者の満足度が高かったことが窺われる
4. 「レポートのための材料として参照したもの」は、「図書館の蔵書＋Webサイト」が最も多く、ついで「図書館の蔵書(紙媒体)のみ」
→学びの場で使われるコンテンツの傾向を垣間見ることができた

平成27年度プレゼミナール アンケート結果

午前・午後に各1回実施し、88名が参加(回収数:81名)

1. 「情報探索レクチャー」の理解度:「とても分かりやすかった」44%、「分かりやすかった」29%、「少し難しかった」11%、「難しかった」4%

2. 有益だった:「有益だった」77%、「あまり有益でなかった」23%
3. 「この2日間だけで、受験生がどんどん成長していくプロセスが見られた」
4. 「メッパの支援や助言」:「有益だった」88%、「あまり有益でなかった」12%、「あまり有益でなかった」0%「有益でなかった」0%

5. 参加者の声(自由記述):「大変だったけど楽しかった」「これからの学びに大いに役立つ」「自分に足りない部分があった」「グループワークで更に考えを掘り下げられた」
6. 傾向を垣間見ることができた

平成28年度の
プレゼミナールでも
ほぼ同様の傾向

平成28年度の
二次試験本番
受験生数は従来の
3倍へ

高大接続システム改革の狙い

『最終報告』(平成28年3月)より

•学力の3要素[再掲]

(1)十分な知識・技能

(2)それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力

(3)これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

•「先行き不透明な社会で生きる人々に不可欠な資質・能力を育成する場である高等学校や大学は、我が国社会の基盤を形成するための公共財」

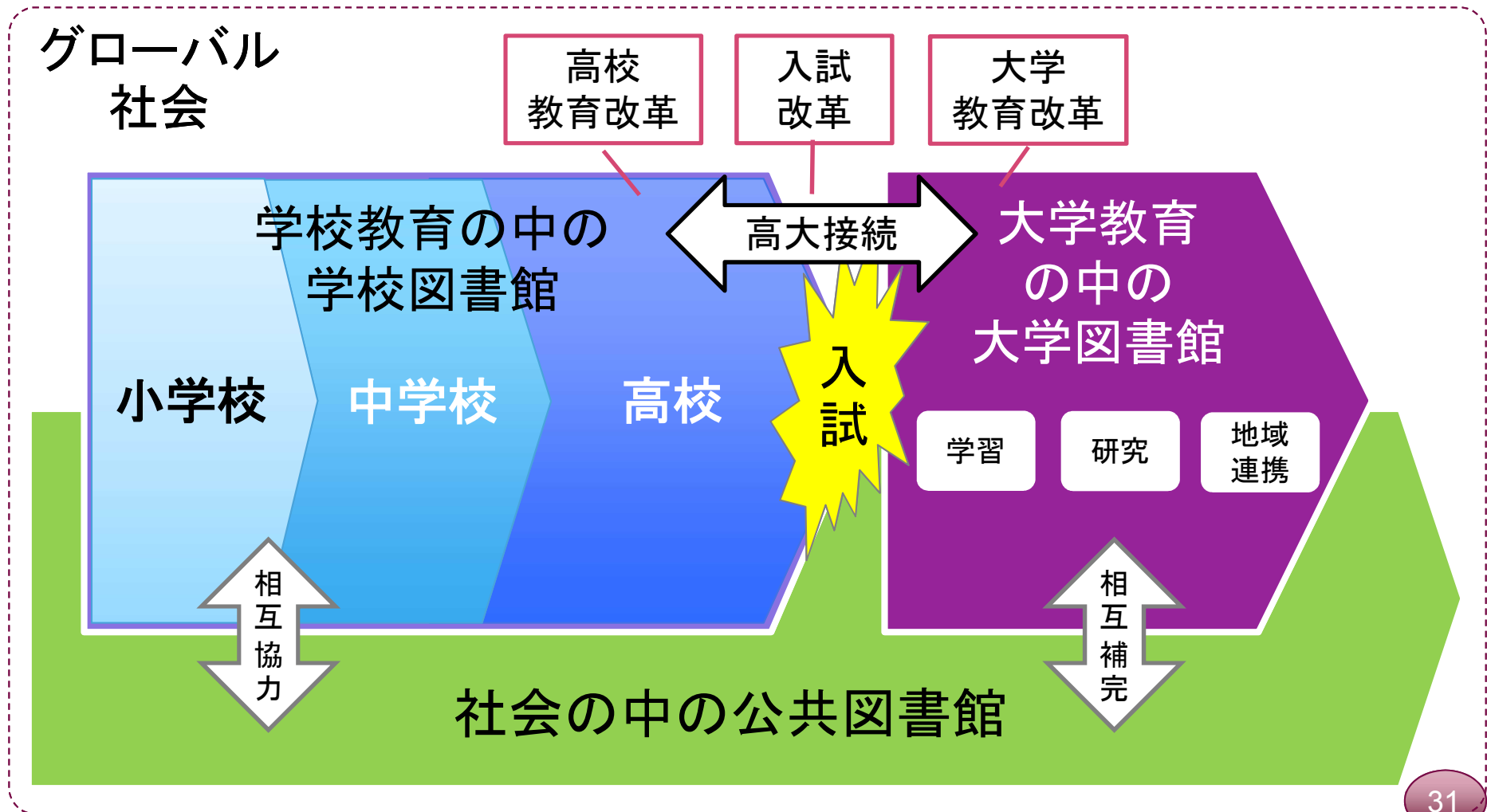
•「置かれた境遇を問わず、全ての人々が充実した教育を通じて高い資質・能力を身に付け、それぞれの選ぶ道で輝き活躍できる社会の実現」

•「関係者はもちろん広く社会全体で知恵を出し合いながら取り組む必要がある」

•出典 高大接続システム改革会議『最終報告』平成28年3月,

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/toushin/1369233.htm

一人一人のライフステージで 情報リテラシーを身につけられる場＝図書館



新フンボルト入試へのかかわり

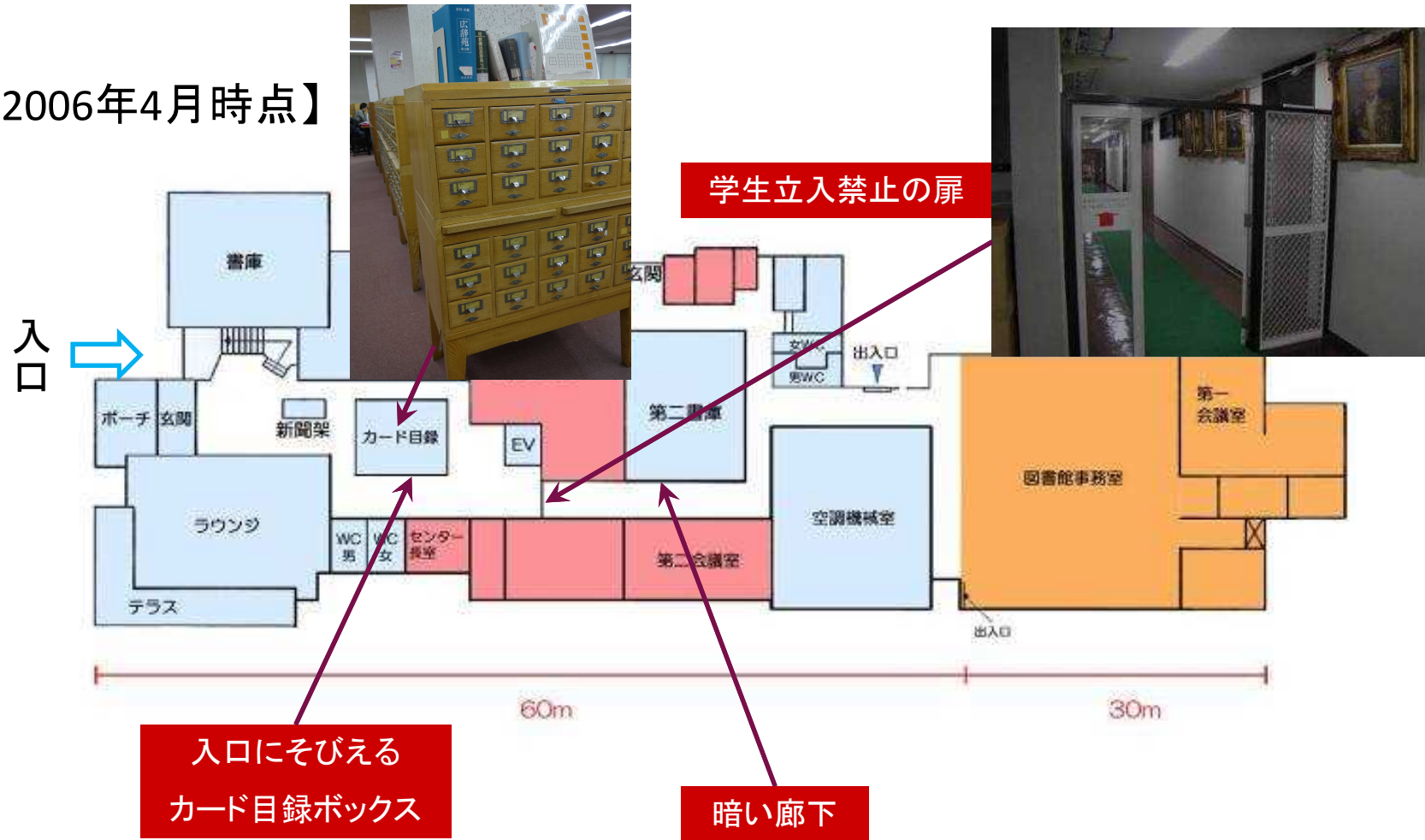
「図書館入試」3つの背景

- そもそもなぜ、「図書館入試」を思いついてもらえたのか
- 「教職協働」「教員との信頼関係の構築が大切」とはよく言うけれど？
 1. 2007年にラーニングコモンズやキャリアカフェを設置し、学内の学習支援部署とのネットワークを築きつつ学びの場を提供してきた
 2. 情報リテラシー教育に積極的に関与し、初年次教育の必修授業やクラス単位のオーダーメイド講習会を実施してきた
 3. 図書館内で行うTA (Teaching Assistant) 相当の学習サポーターとして、従来のICTリテラシー中心のLA (Learning Adviser) を、アカデミックスキルズ全般の支援を担うLALA (Library Academic Learning Adviser) にリニューアルした

「図書館入試」3つの背景

1. 学びの場づくり(改革前)

【2006年4月時点】



学びの場づくり(改革後)

壁のない図書館 ～共に学び、共に成長する場～

【2008年3月時点】



キャリア関連イベントの様子

学生・キャリア支援センターとの連携



企業側：
大規模教室では見え
ない生のお茶大生が
見える



大学／学生側：
日常的に行く図書館で
やっているから、イベン
トの視認性高い

キャリアイベント@図書館 平成26年度実績

回数(企業説明会、OG懇談会等) 88回

延べ参加学生数 3,591名

(内訳) 前期 10回 参加学生 596名、後期 78回 参加学生2,995名

留学関連イベントの様子

国際課・グローバル教育センターとの連携



交換留学生の帰国報告会
@1階キャリアカフェ
→大人数OK！
やっていることが、参加者
以外にも伝わる



留学体験者相談会／
留学カリキュラムデザイン相談
@2階グローバルスタディー
コーナー
→より詳しい相談が可能

「図書館入試」3つの背景

2. お茶大の情報リテラシー講習会

● 第一期(2007～2008)

- ・サービス担当常勤職員2名で細々と「論文検索講習会」を実施。
→ テーマは「効率的な文献の探し方」(DBの利用を伸ばす目的も)

● 第二期(2009～2012)

- ・課内プロジェクトグループとしてリテラシー教育に取り組むことに。
- ・サービス担当常勤だけではなく、非常勤さんや他の担当もメンバーに加わり、「図書館を使いこなそう!」と名称も変更。
→ DBの使い方だけではなく、図書館全体を学びに活かして欲しいという願いを込めた。
→ メンバーが増えたことで内容も充実。
- ・並行して、教員の依頼を受けて「授業内ガイダンス」を開始。
→ 名称を「オーダーメイド講習会」に変更。

「図書館入試」3つの背景

2. お茶大の情報リテラシー講習会

● 第三期(2012～2014)

- ・「オーダーメイド講習会」依頼数が増加。リピーターも多数。
- ・教員から、初年次の必修授業にした方が良いとの提案が！
 - その提案通りとはいかなかったが、1年生必修の情報処理関係の必修授業に組み込んで貰えることに！1コマまたは半コマで実施。
- ・オーダーメイド講習会の人気とは裏腹に、図書館主催の講習会の参加人数が減少...
 - 人気のRefWorks講習会のみ開催することに。

● 第四期(2015～)

- ・2017年度入学者より、従来のAO入試を改革した「新フンボルト入試」として、文系に「図書館入試」を実施することに決定。
- ・2015年8月に行われたプレゼミナールの「図書館情報探索演習」に全面協力。1年生向け講習会をアレンジした情報検索レクチャーを担当。

第三期あたりからの担当者の胸の内

もっとできることがありそう、でもどこまでできるのだろうか？

検索メインの講習会だったら自信を持って実施できる！

大学での学びに踏み込みたいけれど、先生はそこまで望んでいない...？

本当にこの内容で良い？

先生に聞いてみればいいのだけれど、どうやって話を持っていこう

そもそも自分たちがやっていることを見直したいけどちょっと怖い...

これまでの内容を大幅に変えるのも大変...

楽しく見直すチャンス到来！

「高等教育のための情報リテラシー基準(ドラフト2.3)」への意見を出すために、体系表を使って1年生向け講習会テキストを見直すとともに、ドラフトの評価もしてみよう！

- ・2014年8月7日(木) 10:00～11:30
- ・リテラシー教育グループ前期活動レビューの会
- ・リテラシー教育G 6人＋研修で来ていた東京都公立学校教員2名
- ・グループワーク形式

高等教育のための情報リテラシー基準とは？

- 情報リテラシーを、高等教育の学びの場で必要な、課題認識から情報発信にいたるまでの情報活用能力としています。
- 高等教育の場で能動的学習(アクティブ・ラーニング)を進めるためには、汎用的技能としての情報リテラシーが欠かせないと考えられます。
- アクティブ・ラーニングを通じて、学生はその情報リテラシーをより高めていくと考えられます。

学習者が課題に取り組むにあたり情報を活用していくプロセスを6つに整理

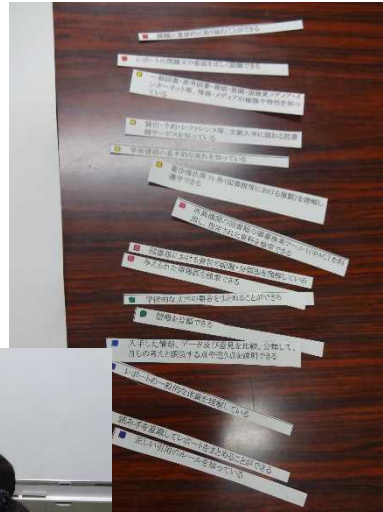
1. 課題を認識する
2. 情報探索を計画する
3. 情報を入手する
4. 情報を分析・評価し、整理・管理する
5. 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する
6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する

<http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503b.pdf>

高等教育のための情報リテラシー基準活用体系表

プロセス・行動指標・構成要素	基礎： 与えられたテーマ・情報源をもとにレポートを作成できる	応用： 与えられた課題について自らテーマを設定し、先行事例を踏まえた上で自らの意見を含んだレポートの作成・発表ができる	発展： 自ら調査・研究テーマを設定し、学術的な論文の作成・発表ができる
<p>1. 課題を認識する 行動指標① 課題を認識し、その解決に必要な情報の範囲を定める。 (構成要素) 1.1 自分が取り組むべき課題を識別し、その本質を把握する。 1.2 課題を解決するために必要となる情報を把握する。 1.3 必要となる情報と現時点で持っている情報を比較し、新たに収集すべき情報の範囲を定める。</p>	<p><input type="checkbox"/> 課題の意図を正しく理解できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 課題に沿ったテーマを設定できる。 <input type="checkbox"/> 自分が設定したテーマについて他の人に説明できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 自ら調査・研究テーマを設定し、仮説を立てることができる。 <input type="checkbox"/> 課題解決のために不足している知識や情報を把握できる。</p>
<p>2. 情報探索を計画する 行動指標② 課題を解決するために必要な情報を合法的・社会的倫理的に適切に、かつ経済的・効率的に探索する計画を立てる。 (構成要素) 2.1 情報の生産と流通の過程を知る。 2.2 情報の種類や特徴を把握する。 2.3 求める情報へのアクセスの方法や入手を支援するサービスを選択する。 2.4 情報を探索する際の合法性・社会的倫理への適合性および経済的合理性に留意して適切な方法を選択する。 2.5 情報の適切・効率的な探索を計画する。</p>	<p><input type="checkbox"/> 学術情報がどのように生産され、流通しているかを説明できる。 <input type="checkbox"/> 一般図書・参考図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット等、情報・メディアの種類や特性を説明できる。 <input type="checkbox"/> 貸出・予約・レファレンスサービス等、文献入手に関わる図書館サービスを利用できる。 <input type="checkbox"/> 著作権法・個人情報保護法など、情報を探索する際の適法性に留意できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 調査テーマに関する先行事例の調査を行うことができる。 <input type="checkbox"/> 課題の解決に適した信頼性の高い情報源を推測できる。 <input type="checkbox"/> ひとつの事柄に対し、複数の情報源で確認することができる。 <input type="checkbox"/> 各種施設（博物館・公共図書館・文書館・美術館・行政機関等）の特徴を説明できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 専門分野における学術情報の流れを説明できる。 <input type="checkbox"/> 信頼性の高い情報を選択できる。 <input type="checkbox"/> 計画の実施においてプロセスのモニタリングができる。</p>
<p>3. 情報を入力する 行動指標③ 探索計画に基づき、課題を解決するために必要な情報を適切・効率的に入手する。 (構成要素) 3.1 探索計画に従って情報入手を支援するサービスを効果的に利用する。 3.2 検索ツールを使って必要な情報を適切・効率的に検索する。 3.3 必要な情報の範囲に照らし合わせて適切な情報を取捨選択する。</p>	<p><input type="checkbox"/> 所属機関の図書館の蔵書検索ツール（OPAC）を利用し、指定された資料を検索できる。 <input type="checkbox"/> 図書館における資料の配置・分類法を説明できる。 <input type="checkbox"/> 与えられた情報源を検索できる。 <input type="checkbox"/> 参考・引用文献リストを適切に読み取り、調査に活用できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 課題に応じてメディア（図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット・人的情報源）を選択し、情報を収集できる。 <input type="checkbox"/> 文献検索の検索路（同音語・上位語・下位語）を工夫できる。 <input type="checkbox"/> ブール演算子（AND・OR・NOT）を利用できる。 <input type="checkbox"/> データベースを活用し、必要な情報・資料を検索できる。 <input type="checkbox"/> 情報の出所や信頼性を点検・確認できる。 <input type="checkbox"/> 情報ニーズに合う文献を効率的に選択できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 先行研究論文等の引用文献リストを利用し、計画的に探索できる。 <input type="checkbox"/> 望ましい情報が得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、データベース・検索式・キーワードなどを見直すことができる。 <input type="checkbox"/> 他機関の図書館から文献を取り寄せるなど、図書館のサービスを必要に応じて利用できる。</p>
<p>4. 情報を分析・評価し、整理・管理する 行動指標④ 収集した情報を批判的に分析・評価し、情報を整理・管理する。 (構成要素) 4.1 収集した情報を信頼性、関連性、正確性、真正性などの点から批判的に分析・評価する。 4.2 情報を適切に記録し、その後の効果的・効率的な活用のために整理・管理する。</p>	<p><input type="checkbox"/> 学術的な文章の要旨をまとめることができる。 <input type="checkbox"/> 情報を取捨選択し、活用できるように整理できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 入手した情報の正確性・真正性と、調査テーマとの関連性を評価できる。 <input type="checkbox"/> 過去の情報と新たに入手した情報の違いを比較できる。 <input type="checkbox"/> 資料リストを作成し、管理できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 批判的思考をもとに、入手した情報の論理性・合理性・正確性・関連性を評価・分析できる。 <input type="checkbox"/> 文献管理ツールを使用して、収集した文献情報を活用できるように組織化できる。</p>
<p>5. 情報を批判的に検討し知識を再構造化する 行動指標⑤ 整理した情報を批判的に検討することで自らの知識を再構造化する。 (構成要素) 5.1 情報を自らの知識と比較参照し、批判的に検討する。 5.2 新たな情報を自らの知識体系に組み込む。</p>	<p><input type="checkbox"/> 入手した情報、データおよび意見を比較・分類して、自らの考えと類似する点や違う点を説明できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 複数の情報、データおよび意見を比較して、自らの考えとして最も相応しいものを客観的に選択できる。 <input type="checkbox"/> 選択した情報、データおよび意見を自分の文脈で意味づけ、自分の言葉で説明できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 得た情報、データおよび意見を一般的な概念として構成し、それを新たに適用することで知識として再構成できる。 <input type="checkbox"/> 再構成した知識をもとに、自らの知識を再構造化し、自分の意見として説明できる。</p>
<p>6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する。 行動指標⑥ 社会的倫理に則り、合法的に情報を活用・発信し、情報の受け手と適切なコミュニケーションを行う。また、情報活用行動全体を省察する。 (構成要素) 6.1 情報を利用する上で必要な法的・社会的倫理的な知識を持つ。 6.2 情報を発信するために必要なICT・コミュニケーションに関するスキルを持つ。 6.3 情報を発信する対象やコミュニティに相応しい表現形式を選択する。 6.4 情報の典拠を明示し、適切に引用を行い、自分の主張を論理的に発信する。 6.5 最終的な成果物を評価し、情報活用行動プロセス全体を省察する。</p>	<p><input type="checkbox"/> レポートの一般的な体裁を説明できる。 <input type="checkbox"/> 他人の文章と自分の文章を区別して書くことができる。 <input type="checkbox"/> 読み手を意識してレポートをまとめることができる。 <input type="checkbox"/> 引用と剽窃の違いを説明できる。 <input type="checkbox"/> 情報の典拠を明示し、適切に引用できる。 <input type="checkbox"/> 提出先が指定した通りの方法で正しく引用し、参考・引用文献リストを作成できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 事実に・理論的な根拠を示しながら、問題提起に対応した主張を論理的に述べることができる。 <input type="checkbox"/> 自らの考えを、論拠を示しながら論理的に発表できる。 <input type="checkbox"/> レポートや発表資料において図表・音声・画像を活用できる。 <input type="checkbox"/> 知的財産権・著作権・個人情報保護等の情報倫理に留意できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 情報を意思決定・問題解決・実験・調査に活用できる。 <input type="checkbox"/> 情報を活用するプロセスや明確性・正確性のモニタリングができる。 <input type="checkbox"/> 学術論文の構成に沿った文章を記述できる。 <input type="checkbox"/> 受け取る相手に適したメディア・形式で適切に発信できる。 <input type="checkbox"/> それぞれの発表の場に適した作法で発表を行うことができる。 <input type="checkbox"/> 自分が発信した情報・論文を評価できる。</p>

楽しく見直すチャンス到来！

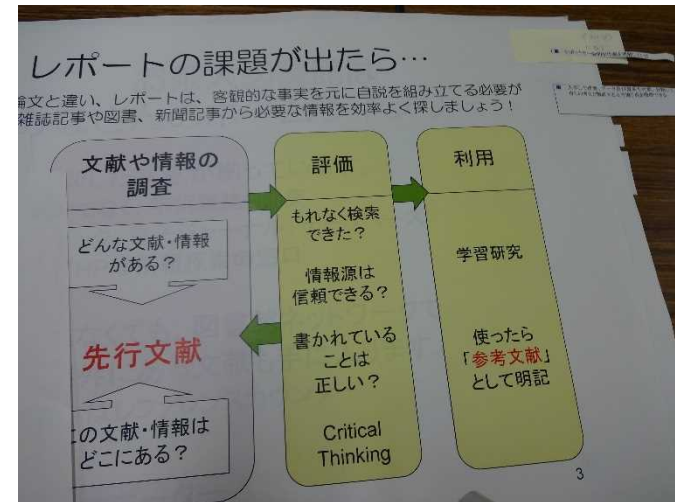


①テキスト(ppt)を1枚ずつA3にプリント

②活用表の「初級」を切り取り、項目別に色分けしたものを数セット用意。

③どのスライドがどの項目に合致するか意見交換。合致する項目をテキストに貼る。

④すべてのページが終了したら、全体を見直してどの部分ができているか、足りない分はどこかを検討。



お茶の水女子大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例
～担当者の自信と心の余裕につなげるために～2015.10.16 餌取直子さん発表資料より

楽しく見直すチャンス到来！

見直しの結果

- ・講習会でカバーできている内容を確認できた！
- ・足りない箇所も分かった。そんなに手間をかけずに修正できそう！
- ・スライドが意図する効果(目的)が明確になったので、説明に説得力が増しそう！
- ・複数人でレビューしたことで、より客観的に評価できた

もやもやが
少し解消♪

改善へのモチベーションUP &
これで良かったんだという自信

AO入試担当の
先生も
オーダーメイド
講習会のリ
ピーター

2015年度の新入生向け講習会のテキストに反映
※著作権に関するスライドを追加し、「引用」についての説明を強化

「図書館入試」3つの背景

3. ラーニングコモンズでの人的支援

- ラーニングコモンズを早い時期(2007年)に設置
 - ラーニングアドバイザー(LA)が常駐
 - 図書館のカフェでキャリア教育関連のイベントや学生の自主企画イベントが目白押し
- ラーニングコモンズといえばお茶大
→改修や身近な工夫で実現しているから参考になりそう

実際良く使
われている

ハッピー
オーラ♪

悩んでいたこと-1

空間／人的支援に関すること

- 経費（LAの人件費／PC導入・保守費）

- 特別経費「学生主体の新しい学士課程の創成 -21世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型専門教育-」
→平成25年度で終了

- 規模

- いつも混んでいる、席と席が近い
- イベントをしていると自習スペースが足りなくなる

- 中身

- LAの業務内容はPCやプリンタのサポートが中心
→それって「ラーニング」アドバイザーと言えるの？
→いわゆる「アクティブ・ラーニング」の場になっているの？
- 情報リテラシー教育支援のあり方は？

悩んでいたこと-2

蔵書・コンテンツに関すること

● 蔵書の配置

- 全学蔵書68万冊の半分が24か所の学科等図書室＋研究室に分散
 - ✓ キャンパス・マスタープラン(平成25年6月)で指摘
 - ✓ 平成24年度「外部評価報告書」(平成25年8月)で指摘
 - ✓ 学生からも、研究室配置の図書が使いづらいとの声

● コンテンツ経費

- 円安影響／間接経費縮減傾向
 - ✓ 電子コンテンツ経費確保に課題

● 学生用図書／コンテンツのあり方

- 選書の在り方(何を)、提供の在り方(どのような形で)
- シラバスとの連携／教育との連携

新しい展開

- 新図書館構想に取り組むことに（平成25年6月）
 - 附属図書館運営委員会の下にWGを設置
 - サブグループ（空間機能、蔵書・コンテンツ、人材育成）を設置
 - メンバーは、教員4名、職員4名
- 新図書館を創立140周年記念事業と位置付けることに（11月）
 - 寄付事業
 - 一部局から全学へ



ピンチは
チャンス！

新しい展開

- 新図書館構想WG報告書を提出（平成26年2月）

「創造的学びと人類智が交差する空間をめざして：
～お茶の水の源泉から世界の大海へ～」

新しい図書館の三つの柱（ビジョン）

(1) 知の源泉となる蔵書・コンテンツの充実を図ります

(2) 創造的学びの場としての空間機能を提供します

(3) 人類智が交差する場として人と人とのつながりを

支援します→新しい人材の開発育成・コミュニティ作り

新図書館構想WGの取組み-1

- 建築の専門家を招いた勉強会



新しい学びの
場として
どんな空間が
必要なのか？

新図書館構想WGの取組み-2

- 電子教材についての勉強会



教育開発センター
情報基盤センター
附属高校(情報)
の先生方も参加

アクティブラーニングのためには
どんなコンテンツ
が必要なのか？

アクティブ・ラーニングって？

- 「読解・作文・討論・問題解決などの活動において分析・統合・評価のような高次思考を行う学習」

山内祐平ほか「ワークショップデザイン論」慶應義塾大学出版会、2013.6

- ...Student must do more than just listen: They must read, write, discuss, or be engaged in solving problems.

Charles C. Bonwel and James A. Eison “Active Learning: Creating Excitement in the Classroom” ASHE-ERIC Higher Education Reports, 1991

○ ○ ○
アクティブラーニング(能動的学修)
のプロセスには静と動の両方がある
のでは

アクティブ・ラーニング実践例-1

- LIDEE“Life Innovation by Design and Engineering Education” <http://www.eng.ocha.ac.jp/lidee2013.pdf>
ワークショップ形式を基本とした「問題解決型」のプログラム

「アクティブ・ラーニング」としてのLIDEEの特徴

- ✓ チーム作業：自分の考えを他者に伝え、また他者の考えを知ることを体験してもらうため、チームによる作業が基本
- ✓ ワークショップ：結果では無く過程を重要視すること、多様な視点や考え方の「気づき」を体験してもらうため、ワークショップ形式での作業を行う
- ✓ 現場調査や専門家の参加：机上の議論だけでは無く街に出てヒアリングをするなど、現場での体験を重視。できるだけ外部の専門家をお呼びして、現場の声を聴く機会を設定

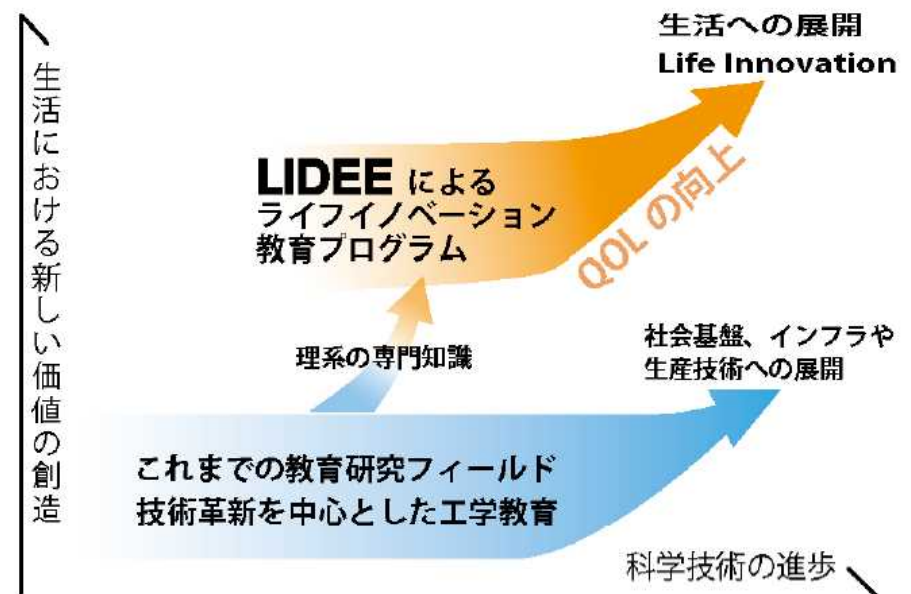
アクティブ・ラーニング実践例-2

- LIDEE“Life Innovation by Design and Engineering Education”

LIDEEの活動から見た求められる空間

- ✓ ワークショップの場所
- ✓ 発表・講評の場所
- ✓ 情報の加工の課題

＋事前調査やアイデア出しのスキルも必要？



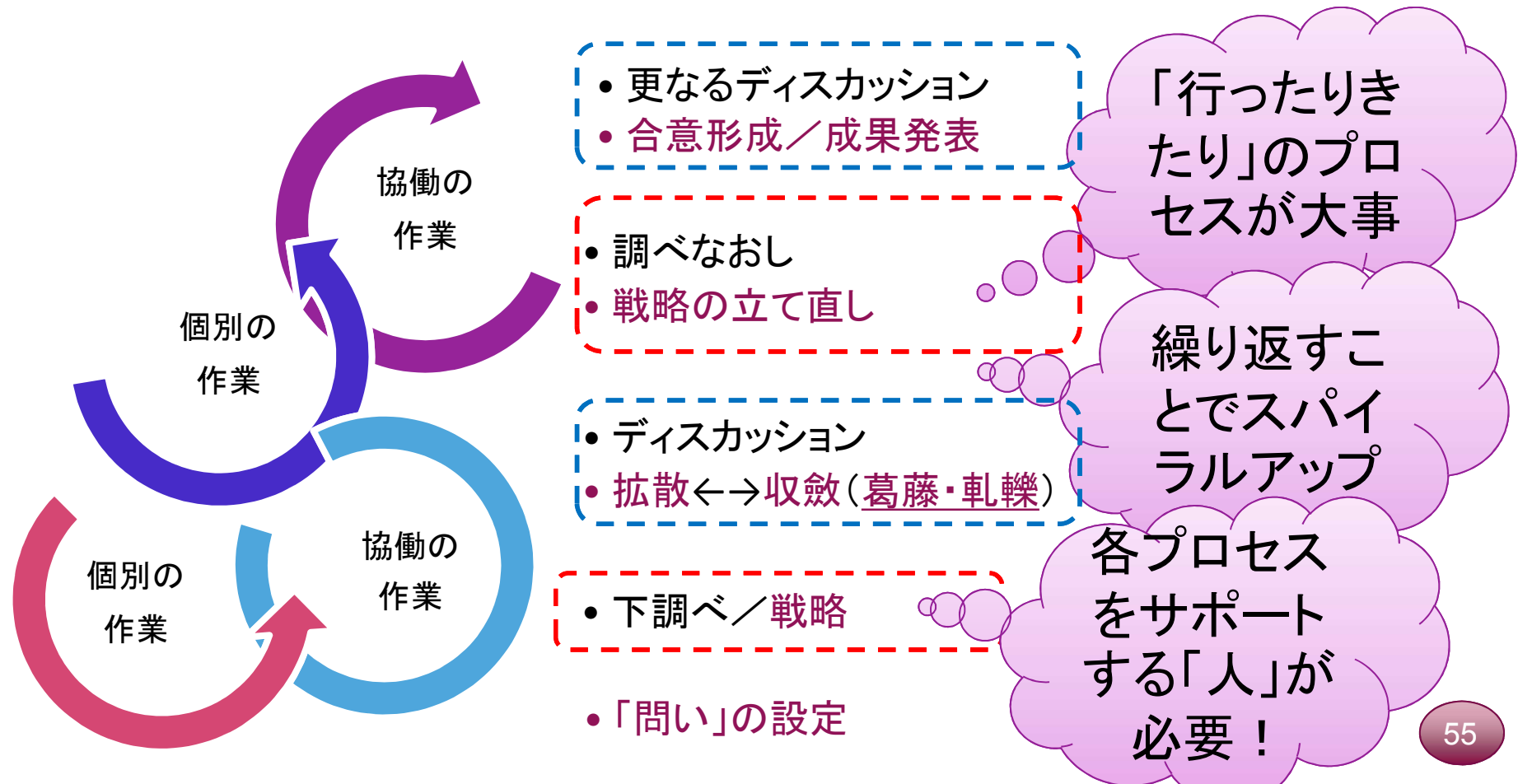
出典: 松田雄二『新図書館構想WG 空間SG「LIDEE」プログラムの報告』

平成25年9月10日 新図書館構想WG第2回打合せ資料

URL: <http://www.eng.ocha.ac.jp/lidee.html>

アクティブ・ラーニングって？-2

- 学修のプロセスは一方向ではない
- 場所は教室だけでも図書館だけでもない



学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-1

- 「学修」支援系の組織
- 総合学修支援センター
 - 学修プロセスの構築をサポートします
 - 「複数プログラム選択履修制度」を全面的にサポート
 - 学内共同教育研究施設として、総合的な学修相談、学修指導などの支援を行い、本学の教育活動に資することを目的としています。
 - 教職員や専門のスタッフなどに、複数プログラム選択履修制度に関するさまざまな相談をすることができます。

学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-2

● 教育開発センター

● 多次元的な学士力養成を担う総合的学修支援

－ 学修支援情報システム alaginの開発運用

alagin (Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system) は、大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム「多次元的な学士力養成を担う総合的学修支援」事業において開発した学生にとっての学修支援情報システム(時間割表示システム + 学修状況チェックシステム)です。

－ 学士課程における各科目のカリキュラム体系上の位置付や水準(ベンチマーク)を5種類のカラーコードで類別

いわゆるルーブリック?

学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-3

- 授業の中で行われている(少人数制)
 - 例:イスラム研究の方法～論文執筆まで
 - オーダーメイド講習会:文献検索～入手を図書館が講習
- 学科・コース、教員個人で行っている

> 各学部・研究科対象のアンケート

卒業論文・修士論文等の執筆の手引きについて

- 「手引き」を作成されていますか? >>22の図書室に調査依頼
何らかの「手引き」作成:1/3
ピアサポートを取り入れている講座もある

学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-4

● 学習・キャリア支援センター

2007年以降継続的にコラボレーション

— 今年度も各種イベントが盛況！

内定者体験報告会／内定者による就活サポートコーナー
日常的な進路・就職アドバイス／キャリアデザイン相談
企業合同説明会(ブースを複数設置)／OG懇談会

● 情報基盤センター

図書館内のパソコン活用は全てITセンターとの協働

— 特別経費終了後の安定的サービスに向けて協働

IT関連の学習環境(モノ／ヒト)の整備は経常的に必要

学内学習支援リサーチまとめ

- 学習支援は学内の各所で実践されているが全体としての連携は・・・？
- 図書館がオープンマインドであることは学内で認知されている

→ハード面だけではなくソフト面で展開

→ニッチなニーズの掘り起し

→個別に動いているプロジェクトを繋ぐ役割

★大学が目指す方向性に沿って

学内で学習支援の活動に欠かせない存在となること

★アカデミック・ラーニング・アドバイザーの新設

アカデミックラーニングアドバイザーの 予算要求

図書館ラーニングcommons(LC)における
学習/研究支援機能の強化 Part II (案)

取扱注意
2014/2/7
図書・情報チーム

平成25年度まで

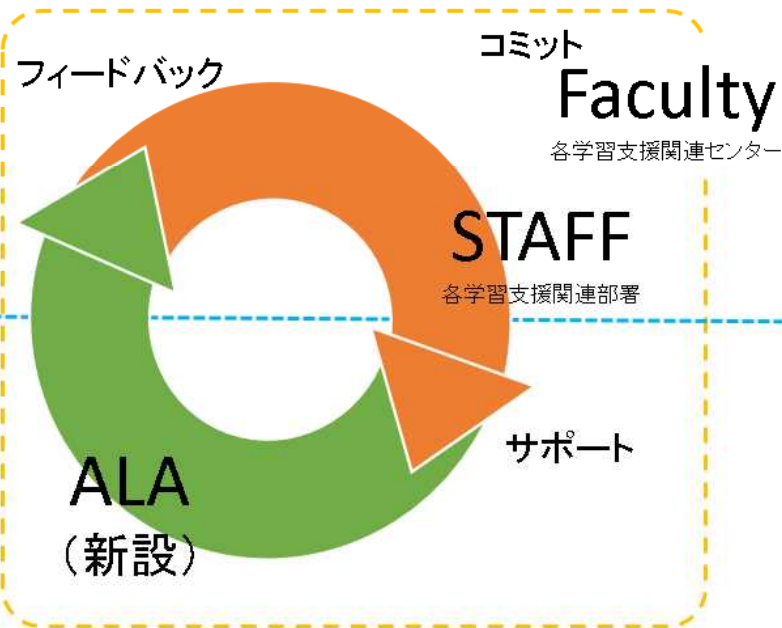
平成26年度から

研究支援

学習支援

- 人員:
・LA(ラーニングアドバイザー)
=TA(一部AA)
- サポート内容:
・図書館開館中常駐
・ICTサポートが主
- 財源:
・特別経費「学士課程」

LA



- 人員
・教員/職員/ALA(アカデミックラーニングアドバイザー)=TA
- サポート内容:
・**コアタイムのみ**
・**学習支援/研究支援**
(情報リテラシー教育支援:
文献検索・管理・ライティング指導など
具体的な内容は要検討)
・ICTサポート
- 財源:
・学内経費
(RF1名分の経費)

結果的に平成26年度～LALA(Library Academic Learning Adviser)を置けることに。

LALA (Library Academic Learning Advisor) 広報資料より

LALA(ララ)とは？

- Library Academic Learning Adviserの略称。
- 教員、学外の専門家、図書館員からアカデミックスキルズに関するトレーニングを受けた大学院生です。
(トレーニングプログラム内容: 図書館情報探索講習会、論文の技法、ライティング支援)
- 2014年度メンバーの専攻(全10名)
比較社会専攻 : 5名(後期:5名, 前期:0名)
理学専攻 : 2名(後期:1名, 前期:1名)
ジェンダー専攻 : 3名(後期:2名, 前期:1名)

LALAの役割は？

- 学生が自ら考え自ら調べることを支援します。
- より専門的な内容の相談については、教員や他の窓口へと適切にナビゲートし、学生と教員の橋渡しをします。



LALAデスクとは？

学生が大学院生のサポートを受けられる相談デスクです。

- 文献の探し方、レポートの書き方についての相談を受け付けています。
- PC、プリンターの質問にも対応。
- サービス時間(土日祝日を除く)
授業期間中⇒9:00～18:00、長期休暇中⇒10:00～16:00



ラーニング・commonsの一角にあります

LALAデスク 相談風景

文献の探し方、
レポート作成など

ぜひ、学生に
利用を
おすすめください！

授業外の学習時間が
さらに充実！

学生の声



困ったときに
優しく教えていただき、
感謝しています。
質問しやすい雰囲気でも
また活用させていただきたいと
思いました。

大学の専門分野で学んだ
ことなどを生かしたいです。
LALA活動が
本格的なアカデミック的な支援に
なればよいと思っています。

トレーニングプログラムや
学生との対話が
自分の学びにもなっています。

LALAの声



参考：LALA (Library Academic Learning Advisor)

平成26年度実績と平成27年度体制

- 体制：LALAデスク1コマ1名

比較社会専攻：5名(後期:5名、前期:0名)

理学専攻：3名(後期:1名、前期:2名)

ジェンダー専攻：3名(後期:2名、前期:1名)

計：11名(応募13名)※)

- 授業期間中のコマ

	①9:00～12:00	②12:00～15:00	③15:00～18:00
月	理学／後期	比較社会／後期	ジェ／前期
火	比較社会／後期	理学／前期	比較社会／後期
水	ジェ／後期	理学／前期	比較社会／後期
木	比較社会／後期	ジェ／後期	理学／後期
金	ジェ／後期	比較社会／後期	理学／前期

- 授業期間外のコマ

	④10:00～13:00	⑤13:00～16:00
月	ジェ／後期	比較社会／後期
火	比較社会／後期	理学／前期
水	比較社会／後期	ジェ／前期
木	ジェ／後期	理学／後期
金	理学／前期	ジェ／後期

※)1名留学したため、後期から10名体制

- LALAデスク開設日／質問件数(忘れ物対応等を除く)

授業期間中：162日、2,831件 1日平均17.5件

授業期間外：28日、96件 1日平均 3.4件

- 時間帯ごとの質問の割合

授業期間中：①28.9% ②37.7% ③33.5%

授業期間外：④50% ⑤50%

→いずれの時間帯にも同程度の質問が来ているが、授業期間外に関しては絶対数が少なく、12:00～15:00の間に質問が集中

- 平成25年度との比較(授業期間中1日3時間減)

質問数：月平均で5割増し

平成25年(7ヶ月間:9月-3月):1,251件(179件/月)

平成26年(10ヶ月間:4月-1月):2,831件(283件/月)

アカデミックスキルズ※)に関する質問数：月平均で倍増

平成25年(7ヶ月間:9月-3月):35件

平成26年(10ヶ月間:4月-1月):98件

※)レポート／論文の書き方、授業の課題、情報検索、図書館案内

- 平成27年度：大学院生TA 7名(継続3+新規4)、RF 1名でローテーション

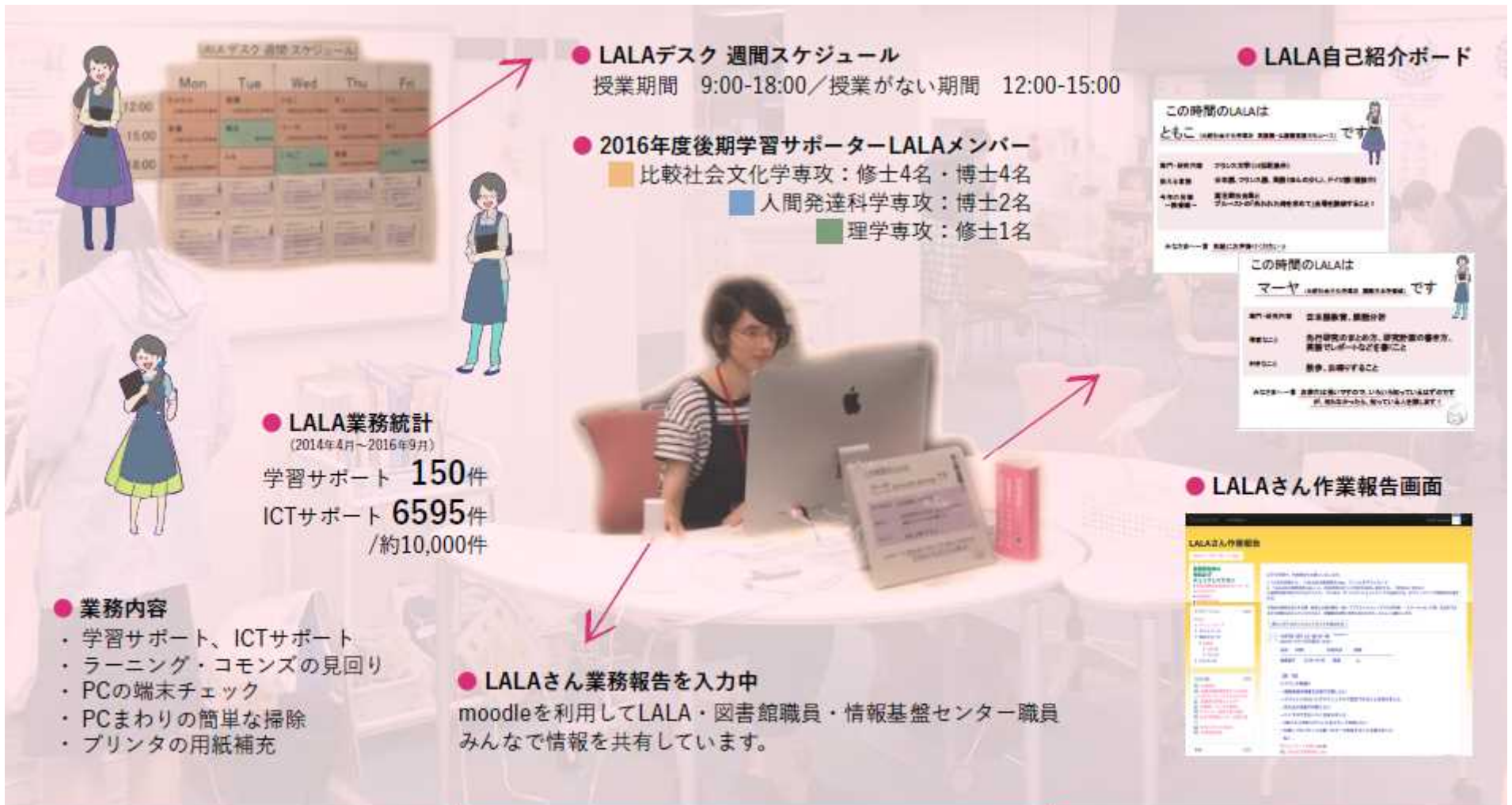
LALA Library Academic Learning Adviser



LALA/Library Academic Learning Adviser

博士前期課程1年 比較社会文化学専攻 矢野智子さん発表資料

活動の目的は何の目的を達成するために必要な図書館総合展第1回学生協働展(2016.11.10)



● **LALAデスク 週間スケジュール**
授業期間 9:00-18:00 / 授業がない期間 12:00-15:00

● **LALA自己紹介ボード**

● **2016年度後期学習サポーターLALAメンバー**
■ 比較社会文化学専攻：修士4名・博士4名
■ 人間発達科学専攻：博士2名
■ 理学専攻：修士1名

この時間のLALAは
ともこ です
専門・専攻内容 フランス文学(仏語専攻)
個人目標 音楽鑑賞、ついでに、英語(独)も学びたい、ドイツ語(独)も学びたい
今年の目標 読書(読書感想文)のコンクールで賞状をもらうこと！
みんなの一言 読書は人生の宝庫です！

この時間のLALAは
マアヤ です
専門・専攻内容 言語学、国語学
個人目標 各分野の研究のまとめ方、研究計画の書き方、英語でレポートなどを書くこと
今年の目標 読書、英語のこと
みんなの一言 読書は人生の宝庫です！

● **LALA業務統計**
(2014年4月～2016年9月)
学習サポート **150**件
ICTサポート **6595**件
/約10,000件

● **LALAさん作業報告画面**

- **業務内容**
- ・ 学習サポート、ICTサポート
 - ・ ラーニング・コモンズの見回り
 - ・ PCの端末チェック
 - ・ PCまわりの簡単な掃除
 - ・ プリンタの用紙補充

● **LALAさん業務報告を入力中**
moodleを利用してLALA・図書館職員・情報基盤センター職員
みんなで情報を共有しています。



LALA/Library Academic Learning Adviser
博士前期課程1年 比較社会文化学専攻 矢野智子さん作成ポスターより
図書館総合展第1回学生協働サミット(2016.11.10)

LALA

Library Academic Learning Adviser

ライティング支援・情報検索などのアカデミック・スキルズや、ICT機器の基本操作に関するトレーニングを受けた大学院生LALAは、図書館ラーニング・コモন্ズのLALAデスクで学習サポート、ICTサポートをおこなっています。そして、学生とLALA、わたしたちはお互いにアクティブ・ラーナーとして、互恵的な成長を目指しています。



● LALA文庫の種類

- A. -C. レポートや論文作成など大学で学ぶに関するもの (入門～上級)
- D. 留学生向けの論文執筆に関するもの
- E. 英語での論文執筆に関するもの
- F. 思考のトレーニングに関するもの
- G. プレゼンテーションに関するもの
- H. その他・もっと知りたい方へ
- I. PCの操作やスキルに関するもの

● LALAさん @LALAデスク

学習相談がしやすい雰囲気づくりのためにLALAデスクの目の前にLALA文庫を設置しました。

豊富なラインナップ
全89書籍

● LALA文庫利用統計 (2015年4月-2016年10月)

Category	Percentage
A, B, C	58%
I	30%

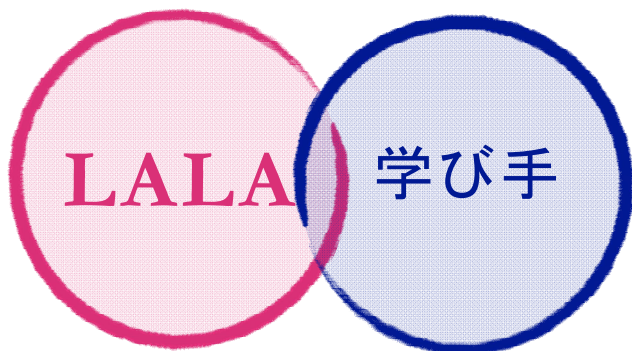
I. PCの操作やスキルに関するもの

- A. レポートや論文作成など大学で学ぶに関するもの (入門)
- B. レポートや論文作成など大学で学ぶに関するもの (初級～中級)
- C. レポートや論文作成など大学で学ぶに関するもの (上級)

もっと学習サポートをしたいなあ。LALA文庫の利用統計を分析してみると、レポート・論文の書き方を初歩から学びたいと思っている学生が多いようだ。ニーズがあることは確か。次のLALAミーティングで情報を共有し、話し合ってみよう！

LALA/Library Academic Learning Adviser

博士前期課程1年 比較社会文化学専攻 矢野智子さん作成ポスターより
図書館総合展第1回学生協働サミット(2016.11.10)



共に学び、共に成長する

情報共有

Chimas2016 日本語 (ja) YANO Tomoko

LALAさん作業報告

Home > FD > SD > LALA

勤務開始時に毎回必ずチェックして下さい

- 附属図書館事務室AITセンターからのお知らせ
- 作業報告
- 学習相談記録

ナビゲーション

- Home
- ダッシュボード
- サイトページ
- 現在のコース
- LALA
 - 参加者
 - バッジ
 - マイコース

社会活動

- 作業報告
- 附属図書館事務室からのお知らせ
- AITセンターからのお知らせ
- 図書館の開催カレンダー
- 図書館「よくある質問」
- ITセンター雑誌入荷案内
- 他大学情報センター広報案内
- 海外に行かれる前に
- 学習相談記録

管理

以下の手順で、作業報告をお願いします。

1. 1つ前の投稿から、「LALA2016業務報告.xlsx」ファイルをダウンロード
2. 「LALA2016業務報告.xlsx」に、担当期間にあった内容を追加し保存する。(保存はこまめに)
3. 勤務時間が終わりに近づいたら、下にある「ディスカッションピックを追加する」をクリックして作業報告を書き込む。

不具合の報告を記入する際、使用した端末番号・OS・アプリケーション(ブラウザ名等)・エラーメッセージ等、状況できるだけ詳細に記入していただくと、問題解決の際に非常に役立ちます。よろしくをお願いします。

新しいディスカッションピックを追加する

11月7日(月) 12:00-15:00
2016年11月7日(月曜日) 14:56

名前	時間	利用状況	削除
後藤敦子	12:00-15:00	普通	△

【質問】

＜プリンタ関連＞

- 履歴登録申請書を白黒で印刷したい
- プリント>Safari>グラフィックスで設定できることを教えました
- 持ち込み用紙で印刷したい
- ここではできないことを伝えました
- USBメモリのWordファイルをカラーで印刷したい
- 印刷>プロパティ>白黒→カラーで設定すること

残りのおピックを読む (65 冊)

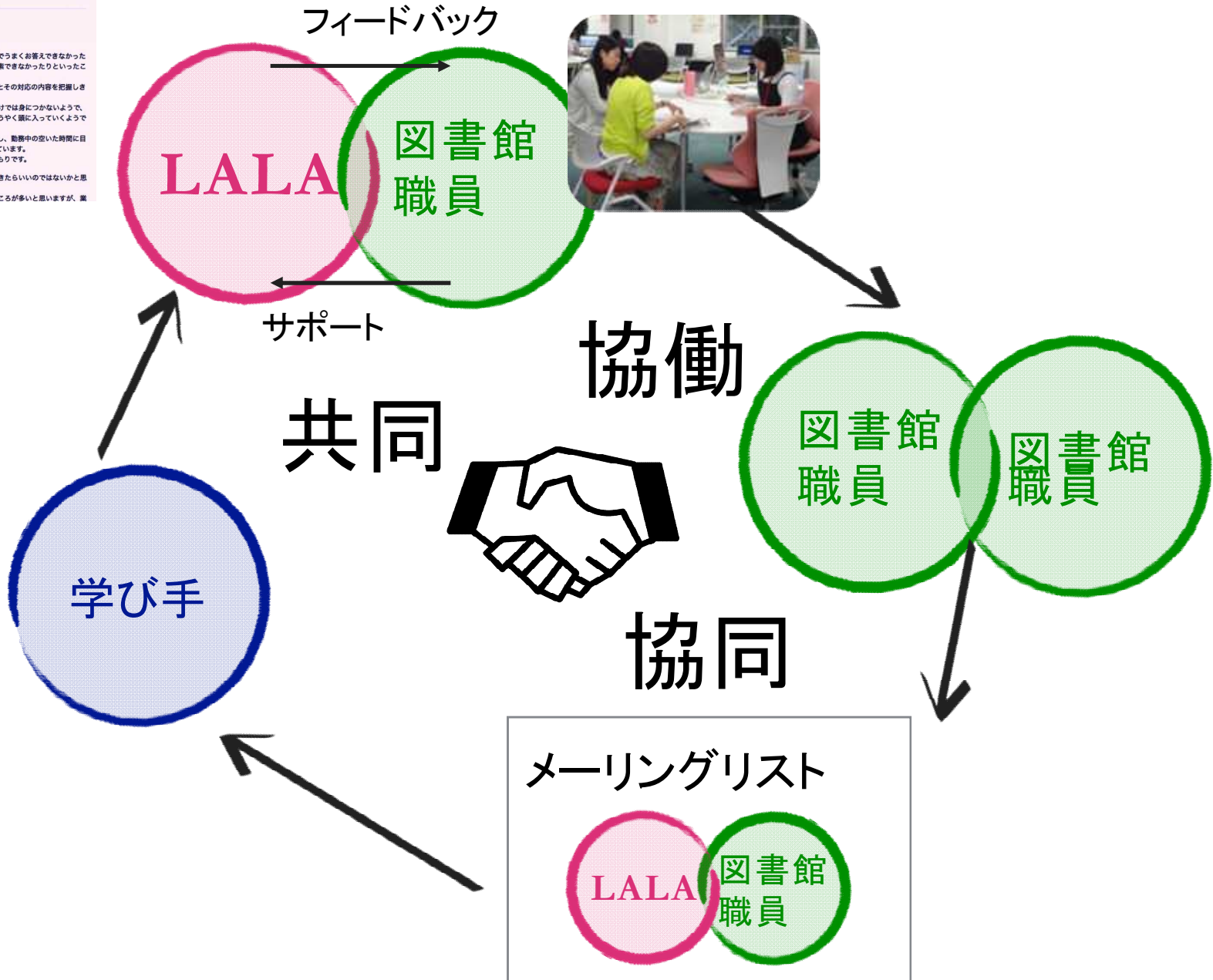
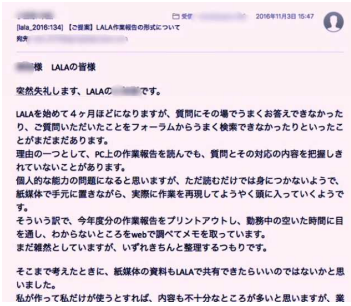
LALA2016業務報告.xlsx

LALA2016年業務報告.xlsx

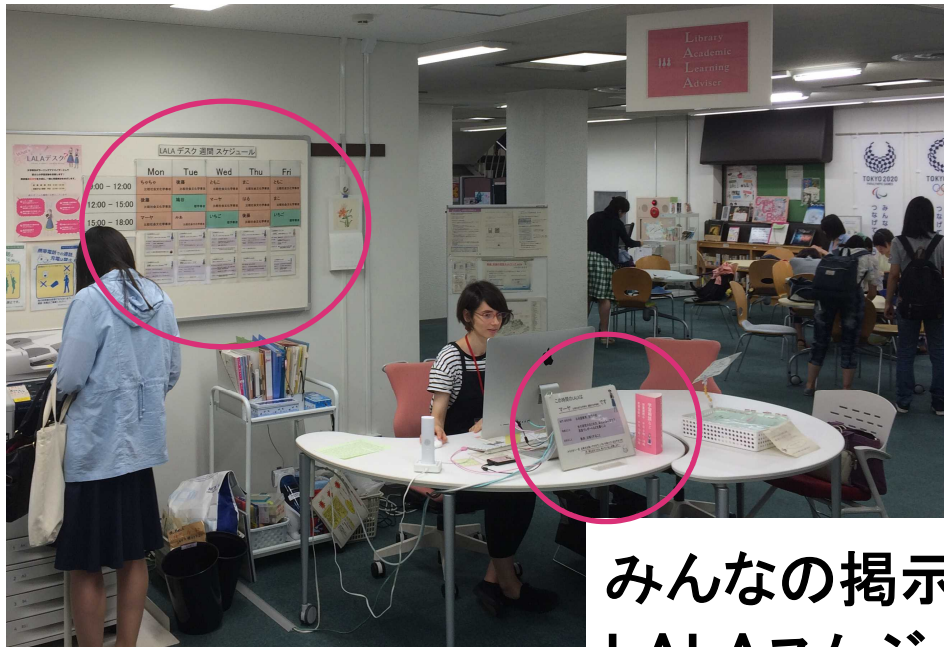
A	B	C	D	E	F	G	H	
2184	2183	2016/8/17	水	スクンデル	13時~14時	PC操作関連	(Win)ワードの使い方、USBの使い方	一緒に操作しました。
2185	2184	2016/8/17	水	スクンデル	14時~15時	レポート/論文の書き方	(ポスター発表)結果の提示の仕方	学習相談記録に記入しました。
2186	2185	2016/8/17	水	スクンデル	14時~15時	忘れ物	ブックマーク	
2187	2186	2016/8/18	木	加藤	13時~14時	情報検索	電子ジャーナルをダウンロードしたい	雑誌タイトルと論文名が混在していたため、一度ウェブの検索を試みたところ、電
2188	2187	2016/8/18	木	加藤	13時~14時	プリンタ関連	PDFの印刷方法	一緒に操作しました。
2189	2188	2016/8/23	火	小笠原	12時~13時	プリンタ関連	印刷しようとする、注意表示が出る。	印刷範囲外にカールが置かれたままになっていたことが原因でした。削除したと
2190	2189	2016/8/23	火	小笠原	13時~14時	忘れ物	pasmo定期券	取りこらっしゃいました。
2191	2190	2016/8/23	火	小笠原	14時~15時	忘れ物	倫理審査申請書	2階カウンターに預けます。
2192	2191	2016/8/23	火	小笠原	14時~15時	忘れ物	プリント(ガイア伝説・デジワールド)	2階カウンターに預けます。
2193	2192	2016/8/23	火	小笠原	14時~15時	忘れ物	レポートの最終ページ(参考文献一覧)	2階カウンターに預けます。
2194	2193	2016/8/24	水	スクンデル	12時~13時	忘れ物	PASMO	ご本人がすぐに取りに来られました。
2195	2194	2016/8/26	金	諏訪園	12時~13時	その他	修正テープを貸して欲しい	文具コーナーになかったとのこと、LALAデスクのものをお貸ししましたが、紛失で
2196	2195	2016/8/29	月	後藤	12時~13時	PC操作関連	スキャナーで読み取ったファイルが画像JPG	読み取り保存する時にファイルの種類を選べるところを教えました。
2197	2196	2016/8/29	月	後藤	12時~13時	PC操作関連	まい、画面が黒くなってしまったが、電源	で、様子を確認します。現在メンテナンス中の札を置いています→その後起
2198	2197	2016/8/29	月	後藤	12時~13時	プリンタ関連	M4の原稿をB4に拡大してコピーしたい	動きさせた。最初boot画面に行きましたが、再起動させたら普通に利用で
2199	2198	2016/8/29	月	後藤	13時~14時	プリンタ関連	USBメモリ内のファイルを印刷したい	コピー台にM4原稿を置き、用紙をB4に設定して、拡大のところで自動にして
2200	2199	2016/8/30	火	小笠原	13時~14時	プリンタ関連	右プリンタに紙づまり表示が出ている。	初めてランゲージメニューで印刷するようでしたので、一緒に操作して印刷
2201	2200	2016/8/30	火	小笠原	12時~13時	忘れ物	プリント(英文8月29日 LG プリンタ左	機が壊れたのかと調べたところ、紙は足りていなかったことが原因で、紙を引
2202	2201	2016/8/30	火	小笠原	14時~15時	忘れ物	プリント(「フィールドワーク方法論(2016年度)」	つ張り出していた方がいらした
2203	2202	2016/8/30	火	小笠原	14時~15時	忘れ物	プリント(英文)	2階カウンターに預けます
2204	2203	2016/9/1	木	加藤	13時~14時	その他	PC動作確認で、Lo48が電源を何度入れても、	掃除やヘッドフォンのチェックだけ行い、「メンテナンス中」の札を置きました。

LALA/Library Academic Learning Adviser
博士前期課程1年 比較社会文化学専攻 矢野智子さん発表資料

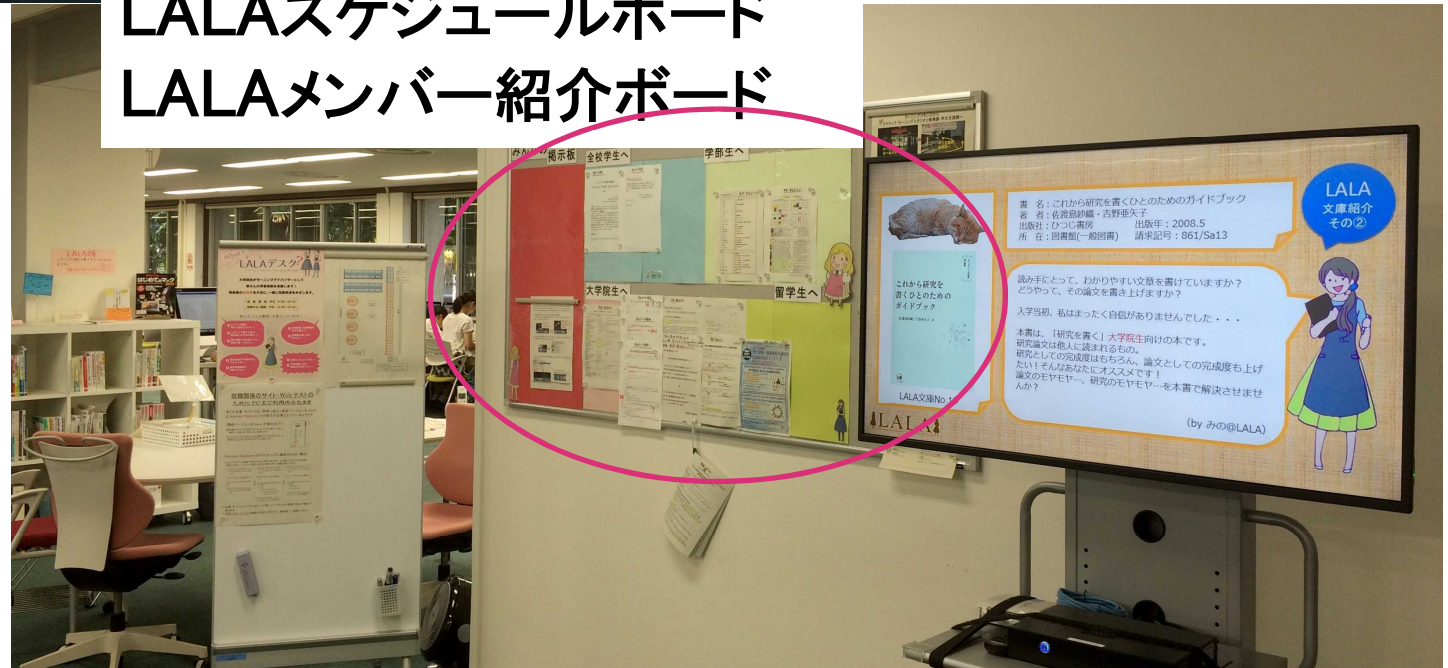
活動目的は何か、目的を達成するために必要な図書館側企画第一回学生協働セミナー(2016.11.10)



LALA/Library Academic Learning Adviser
 博士前期課程1年 比較社会文化学専攻 矢野智子さん発表資料
 活動の目的は何か？目的を達成するための工夫は？図書館総合展第1回学生協働サミット(2016.11.10)



みんなの掲示板 LALAスケジュールボード LALAメンバー紹介ボード



LALA/Library Academic Learning Adviser

博士前期課程1年 比較社会文化学専攻 矢野智子さん発表資料

活動の目的は何か？目的を達成するための工夫は？図書館総合展第1回学生協働サミット(2016.11.10)



図書館

LALA

職員

留学生
相談室

チューター

コミット

教員

チューター

教員

LALA

チューター

LALA

職員

職員

学内で…
合同トレーニングプログラム

予算要求で描いた
構想を、絵に
描いた餅に終わ
らせない！

LALA/Library Academic Learning Adviser
博士前期課程1年 比較社会文化学専攻 矢野智子さん発表資料
活動の目的は何か？目的を達成するための工夫は？図書館総合展第1回学生協働サミット(2016.11.10)



LALA/Library Academic Learning Adviser
博士前期課程1年 比較社会文化学専攻 矢野智子さん発表資料
活動の目的は何か？目的を達成するための工夫は？図書館総合展第1回学生協働サミット(2016.11.10)

合同プログラム終了5分後…



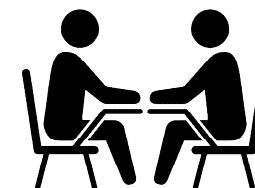
LALA/Library Academic Learning Adviser
博士前期課程1年 比較社会文化学専攻 矢野智子さん発表資料
活動の目的は何か？目的を達成するための工夫は？図書館総合展第1回学生協働サミット(2016.11.10)



主体性の尊重

学び手

学び合う姿勢



情報共有

LALA/Library Academic Learning Adviser

博士前期課程1年 比較社会文化学専攻 矢野智子さん発表資料

活動の目的は何か？目的を達成するための工夫は？図書館総合展第1回学生協働サミット(2016.11.10)

新しい動き：学務／図書館、そして全学へ

教育・学習支援関連研修・セミナーの 参加報告を兼ねた勉強会

○開催日時：平成28年9月15日（木） 10：00～11：45

○開催場所：附属図書館1階 キャリアカフェ

○対象：全事務職員を対象とします。常勤職員の方も、非常勤職員の方もぜひご参加ください。

○お申込み：ocha-shiru@cc.ocha.ac.jp までご連絡ください
※ 9/13(火)×切

○今回の目標： First Step ～はじめの一步～

- (1)本学及び他大学の教育改革の方向性や実践例について学ぶ。
- (2)業務に関連する各種研修・セミナーの内容を関係者で情報共有する。
- (3)参加者の関連業務について理解を深めるとともに、考えや視点の違い及び共通点について気づきを得る。
- (4)グループワークの手法を体験する。短時間に気軽に意見を出し合い、いろいろな考えを視覚的に共有する。



～プログラム～

* 趣旨説明 (2分)

* 教育・学習支援関連研修・セミナーの参加報告(20分)

学務課及び図書・情報課から、それぞれの視点でご報告します。

- ・本学のFD/SD研修「アクティブラーニングの現場で生きる人的支援と空間」の参加報告 (10分)
- ・東工大の大学教育改革特別セミナーの参加報告 (10分)

* 本学の教育改革の方向性や実践例に関する講義 (45分)

三浦 徹 教授(基幹研究院 人文科学系長)にご講演いただきます。

テーマ「教育改革の内と外：改革はどのようになされるか
～21世紀型文理融合リベラルアーツを実践例に～」

* グループワーク (30分)

参加者全員によるグループワークを行います。

気軽に意見を出し合い、気づいたこと、もっと知りたいこと、次回の課題を見出すことを目的とします。

* 全体まとめ・次回に向けて (8分)

研修会やセミナーで得た知識や考えを課を越えて共有し、お茶大のことを知り、それらについてざっくばらんに話し合う場を持ちたい、という思いから、このような勉強会を企画しました。

今回をはじめの一歩として、参加者のみなさんと一緒に、次のステップにつなげたいと思っています。かっちりした会ではありませんので、お気軽にご参加ください。



新しい動き：図書館増築・改修

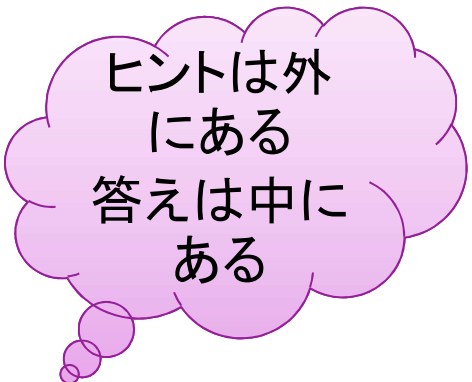
- 附属図書館増築・改修に向けて（平成28年度）
 - 4月：自己資金（目的積立金、寄附金）による増築決定
 - 6月：改修について平成29年度概算要求書の提案
 - 7月：WG発足（平成25年度新図書館構想WGの後継）
 - 8月：改修について第2次補正予算採択
- 今後のスケジュール（予定）
 - 平成28年度中：基本設計→実施設計
 - 平成29年度：着工→竣工
（居ながら改修・図書館入試との兼ね合い）
 - 平成30年度：リニューアルオープン

多くの素晴らしい図書館・学習空間が
全国で生まれている。
様々な事例を学びつつ、お茶大らしい
図書館を作りたい

大学全体に資する
図書館でありたい。
学生用のスペース拡充
ということに加えて、
教職員のコミュニケーションが
生まれる場にしたい

学生を知り、学生を育てるために できることは？

- 図書館の外側から発想する
 - 「図書館が」何をするべきか、から考え始めると、なかなか殻が破れない
 - 学生さんは、何を求めているんだろう？
 - 教員は何を求めているんだろう？
 - 大学は何を求めているんだろう？
- 自分たちも含め、課題解決のリソースになる
 - 新しいことをしようとする人は結構孤独
 - いかに寄り添い、課題解決に導くためのリソースになれるか？
 - あなたの周りに困っている人はいませんか？
 - 話せる「人」をつくることが、第一歩
- 理想・構想を描きつつ身近な一歩を踏み出す
 - 大学のミッション、3つのポリシーを実現するには？
 - 完璧でなくてもいい。最初の一歩をいかに踏み出すか。
 - やり始めてみてからの振り返りと改善



ヒントは外
にある
答えは中に
ある

Step 14:10 ~ 15:40

グループワーク②

- グループで解決策についてディスカッションする
→30分
 - グループワーク①で共有した課題
 - 新たに生じた問題意識
 - やってみたいこと・やれそうなこと
 - お土産を持って帰れるように！ 職場内でもぜひ共有を！
- 決意表明：各グループで出た事例を発表する
→4分ずつ(4分×13グループ=52分)

全体討議に向けて(imakiku)

- グループワーク②をやってみてどうでしたか？
→参考になったかどうか4択。
- グループワーク②の発表を聞いて印象に残ったこと、コメント、質問はありますか？
- 全体討議で取り上げたいことはありますか？
→自由記述。次のセッションに生かします